

# 第3回分科会活動報告

日 時：2013年8月30日（金）

場 所：浜名湖ロイヤルホテル

出席者：18名（内訳：正会員7名、講演者2名、賛助会員他9名）

記録者：共立女子学園 田中俊介（第一分科会幹事）

テーマ：大学教員，大学職員の力を活かす！（FD，SD）

## 1. 配布資料

- (1) 2013年度第3回第一分科会参加者名簿
- (2) 講演資料「大同大学のFDの取り組み」
- (3) 講演資料「名城大学におけるSD戦略 ―時代が求める新しい人材とは―」
- (4) デモ資料「大学向け授業支援システム CoursePower ご紹介」
- (5) 討議資料「FD モヤモヤガタリ/FD ミライガタリ」

## 2. 研究活動内容

【伸びしろ日本一を目指し，大学教員と大学職員の力を活かす】

[午前の部]

### (1) 全体会（8:30～9:00）

- a. 開会の挨拶
- b. 事務局より連絡
- c. アイス・ブレイク

### (2) ご講演（9:00～10:30）

テーマ：「大同大学のFDの取り組み」

講演者：大同大学 授業開発センター長 酒井陽一氏

大同大学の酒井陽一先生をお招きし、「研究授業（公開授業）と授業見学会」を中心に、大同大学のFDの取組みについて、お話を伺いました。

大同大学は1995年から学生の学力低下を意識し始め、「教育重視型大学」への転換を決意したところから、「授業開発センター」を開設したとのこと。また、2001年には授業憲章2001を制定し、「授業重視型大学」、「全教員の授業の公開」、「持続的な授業改善と充実」を宣言しています。

酒井先生の講演では、実際の「研究授業（公開授業）」の運営方法とその評価のお話が中心でした。特に、授業終了後に行われる授業研究会は、他大学でもあまり事例がなく、大同大学の授業改善への意気込みが感じられる取組みでした。成果としては、教育効果、授業評価とも上がっており、授業開発センターの所報「授業批評」（年4回発刊）としてまとめられています。今後の課題としては、教員個人による授業改善に加えて、組織的な授業改善を上げられていました。

1995年という教育課程大綱化の時期ですから、早い段階から危機感を持ち「教育重視型大学」への転換を表明したことは、大英断だったのではないかと想像されます。その成果が結実したことをお聞きし、現在の日本の大学に求められている授業改善をどう実現

するかを各大学毎に考える必要があることを改めて認識する講演となりました。

(3) 意見交換会 (10:40~11:30)

テーマ：「FD モヤモヤガタリ/FD ミライガタリ」

FD についての参加者が考えるモヤモヤしていることや、FD の未来をどう考えるかを自由な形で話し合いました。具体的には、

- ① 日々感じている FD のモヤモヤや違和感は？
- ② 自大学の FD についての不安や期待は？
- ③ 自大学の FD について誇りに思い、自慢したいことは？
- ④ FD について、本当はもっとやりたいことは？
- ⑤ FD について、他大学の人にぜひ聞いてみたいことは？

のうちから 1 点を選び、各自の考えを披露し、他の参加者からコメントしてもらいました。さまざまな意見が出ましたが、インターンシップの学生の積極的な発言により、我々教職員が深く考えさせられる場面があり、FD について教員、職員、学生のそれぞれの立場で考えることも重要ではないかという気づきがありました。

(4) 「CoursePower」紹介 (11:40-12:00)

富士通株式会社の大学向け授業支援システム「CoursePower」の紹介とデモを実施しました。

【第一・第二分科会による夢のコラボレーション企画！】

[午後の部 (第二分科会と合同)]

(1) 全体会 (13:00~13:30)

- a. 開会の挨拶
- b. 合同企画説明 (遠山幹事)
- c. アイス・ブレイク

(2) ご講演 (13:30~14:30)

テーマ：「名城大学における SD 戦略 — 時代が求める新しい人材とは —」

講演者：名城大学 大学・学校づくり研究科 池田輝政氏

名城大学の池田輝政先生をお招きし、SD をテーマとして、そもそも SD とは何かと名城大学の大学・学校づくり研究科での SD 戦略について、お話を伺いました。

冒頭では、昨今の SD 論について、教員、職員それぞれの立場からの見解が紹介されました。共通する人材像としては、「大学プロフェッショナル (専門性)」というキーワードが提示され、プロフェッショナル人材となる大学職員の専門能力と処遇を明確にすることが必要になっていくというまとめとなりました。

次に、時代を遡って、2002 年における SD 論の原点の議論について、紹介がありました。その議論では「職能組織・仕組みの形成」というキーワードが提示され、大学職員から専門職集団を育成する団体と大学院プログラムの整備が提案されていると説明されました。

最後に、この議論を受けて、名城大学の大学・学校づくり研究科での SD 戦略が紹介されました。この研究科では『戦略思考法 (Strategic Thinking)』を大切にしており、「目標実現に向けた協働の仕組みを実践的に考え出す力」と説明されました。

池田先生がおっしゃる中で、「論理より情熱」という言葉が度々登場し、非常に印象的でした。

(3) グループ討議 (14:30~15:30)

テーマ：「大学職員は、どんな役割を果たすために、何をどう学んで実践していくか？」

進行役：産業能率大学 福森氏 (第二分科会担当幹事)

第一分科会と第二分科会との合同企画でしたので、教員と職員がそれぞれの立場で討議を行えるように4つのグループに分かれ、標記のテーマでグループ討議を行いました。4つのグループの討議報告では、「大学プロフェッショナル」、「教職協働」、「おもてなし」、「経営参画」、「コミュニケーション」などのキーワードが抽出され、池田氏の講演からキーワードを掴んでいるといることが感じられました。池田氏からは、講演の中でも度々おっしゃっていた「論理より情熱」という言葉について、「組織の文化にはハートがないと駄目で、理屈から入ってしまうと問題解決ができない。」との解説をいただきました。

今回のキーワードにもあった「教職協働」という意味でも、今回の第一分科会と第二分科会の合同企画は有意義な活動になりました。



以 上